
THE
Olympic Golf Club



AUGUST 2003 VOL. 8

そのおかげで、真野オリンピックの首、私共の
会社も大変喜ばれておりました。アサヒスポーツ

に、真野オリンピック
トを提携していたに
分の草の中で私共の
られ、業績のアップを
ある。

る。1994年、リン
開業されたが、それ
ンピックが開かれた
手に動き込まれ、盛
ていた。

後にサレバンメルオ
い入れ、自らも多忙
りおハンズからサ
場で飛行機から降
はサマソンさん
いるのだが、それが
ことに気が付いた。

のサレバンメルオ
オートであったが、
当時、あの平野でま
のこともどう一歩
アサヒの人達へのメ
さんは10年前のコー

私が受けたが、リン
とさんのお知り物に
お話を伺う。私の手紙に対し、しばらくしてサ
マソンさんから、この自業園が開いた。短い文
書が送られており、それには「大川さんにおめ
えと書つておれ」と書かれてあった。これは
私が読んで、アサヒさんから届いたものな
りである。

女性ゴルファー バンザイ

出席者 小濱香津子・長田照代
大川 清
聞き手 五嶋雅徳



80人いるオリンピックの女性メンバーの代表として、お二人に登場願った。お二人とも競技委員をされて、大川会長を力強く支えていらっしゃる。関西女子ゴルファーの草分け、よりははずっとお若いのが、よき時代のゴルフ界を知っていらっしゃる。ゴルフをするようになったきっかけ、取り組み方など女性ゴルファーだけでなく、男性も参考になるお話がたくさん聞けた。

アマチュア全盛の頃

- 五嶋 「オリンピックの会報で女性の方だけの対談は初めてです。いつもと違う楽しい時間が過ごせると思いますが（笑い）、会長さん、いかがですか？」
- 大川 「ウーマンプレーヤーとしての、男に対する注文とか、おありでしょうから、今日は忌憚なく……（笑い）」
- 五嶋 「女性の方にお年を聞くのは失礼なんですが、小濱さんの方が年輩なんですか？」
- 小濱 「大分年輩です」
- 一同 「ワッハハハハ」
- 五嶋 「それじゃ、お年はお聞きしません」
- 小濱 「いいえ、聞いていただいても、何ら、もう。いい年でございますから」
- 五嶋 「そうですか。私66ですけど…」
- 小濱 「私も66です」
- 五嶋 「25歳からゴルフを始められたそうですが？」
- 小濱 「結婚して子供が生まれてからですね」
- 五嶋 「ご主人もゴルフをされるんですね」
- 小濱 「結婚してすぐに打ちっ放しに連れていってくれまして、長男ができてから本格的に始めました。そのころは神崎川の練習場に行くのが楽しみで、ナイターもやりましたから楽しくて」
- 五嶋 「ハンデは？」
- 小濱 「今は12です」
- 五嶋 「一番いい時は」
- 小濱 「10です」
- 大川 「えっ、シングルだったでしょう？」
- 小濱 「いえ、シングルはいかなかったです」
- 五嶋 「関西女子アマで8位と12位とか？」
- 小濱 「そうですね。ちょうど女子アマの女王といわれた清元さん（登子）が優勝したところで、27ホールを2日間しました。関西女子アマといっても名古屋から九州までの方が参加するんですね…」
- 大川 「沖縄まで、ぜんぶね」
- 小濱 「のんびりしたころでした。その後プロが誕生しましたからね。日本女子オープンにも3度出ました。プロが出来たてだったからアマチュアも活躍していました」
- 五嶋 「ホオオ」

- 小濱 「樋口（久子）さんとか中村（悦子）さんとか二瓶（綾子）さんとかいて、私みたいな人が出していただけの、いい時代でした」
- 五嶋 「昭和40年代？」
- 大川 「40年以降です。清元プロがアマの時代ですから」
- 小濱 「そうですね、服部道子のお母さん（絃子）とか」
- 五嶋 「じゃ、もう関西というより日本の女子ゴルフの流れをずっと見てこられた」
- 小濱 「いえ、そんな、とんでもない。立派な女性ゴルファーの集りとして有名な関西レディーズゴルフクラブを作られた方とか、その最初からの方が一番活躍してらしたから、私なんかそばへも寄れなかった」
- 五嶋 「日本の女子ゴルフの草分けの方たちと一緒に…」
- 小濱 「そう、一緒にできたと言うことが幸せでしたね」

オリンピックは男女同権

- 五嶋 「関西レディーズゴルフクラブは今何人いらっしゃいますか？」
- 小濱 「300人です」
- 五嶋 「各クラブの代表…」
- 小濱 「ええ、オリンピックが一番多くて。皆さん、18になったら入ることを目的にやってらっしゃいますので」
- 五嶋 「それは腕前だけではなくてマナーも…」
- 小濱 「昔はね24からだったんです。クラブに入ったら、関西レディーズゴルフクラブに入れて頂いて、マナーとか覚えてから選手権なんかに出たわけです。今は小さいときからゴルフして大学でもゴルフしますからいきなりそういうところへ入るのがありますが、最初はそういうところへ入るのが第一目的で…」
- 五嶋 「友達の輪が広がって行くわけですね」
- 小濱 「はい」
- 五嶋 「長田さんも25の時から始められて」
- 長田 「はい」
- 五嶋 「小濱さんとは…」
- 長田 「私がオリンピックに入ってからおつきあいするようになったんです」
- 五嶋 「会長、お二人ともオリンピックの競技委員をされているわけですけど、素晴らしい女性の方がおられますね」
- 大川 「そうですね。お二人に引っ張っていただくと、私は安心してます」
- 五嶋 「オリンピックの女性のメンバーは何人ぐらいいらっしゃるんですね？」

大川「80人です」
 五嶋「80人で、女性だけの競技会というのは何があるんですか」
 大川「レディース杯、これは毎月一回ですね。それと月例などの競技会に参加する女性も多いですね」
 長田「よそのクラブでは、女性はあまり参加しませんね」
 大川「うちは、男女同権なんですよ、ハハハ」
 小濱「研修会というのもあります。せっかく80人のメンバーがいらっしゃるから、クラブライフの輪の中に入ってきて欲しいですね。お顔も知らないではさみしいですから、気軽に月例とか練習会に」
 五嶋「長田さんのオフィシャルハンデはいくつですか？」
 長田「16です」
 五嶋「いいときは」
 長田「8までさせていただいたんですね」
 五嶋「最近クラブレディース杯の成績はいかがですか」
 長田「私は5、6年前から体をこわして、店（大阪・鶴橋ですし店を経営）にも出るようになって、それで競技の方は月に2回程度ですね。それまではいろいろと女子アマやシニアにも出ささせていただいたんですけどね」
 五嶋「シニアなんてそんなお年じゃないでしょう」
 長田「いえいえ、シニアは50からですからね」
 小濱「もう悠々、出られますよ」
 大川「もう、50過ぎてるんですか？（笑い）」
 長田「ずっと過ぎてますよ」
 大川「本当かな、アハハハ」

練習また練習

五嶋「関西女子アマに出られると言うのは本当に選ばれた方々ですね。若い頃は毎日みたいに練習に行ってもらえたか」
 長田「好きでした。とにかく練習が好きで、朝、家のことを早くしてしまってからちょっと練習に行きまして、それからお店が終わって夜中に練習しまして、そのまま寝ないでコースに…」
 五嶋「ホーッ」
 長田「茨木、宝塚と行きました。若かったんですね。もうできませんよ。今は時間さえあれば寝る方が先」
 五嶋「長田さんもご主人が先にゴルフをされたんですか？」
 長田「ええ、主人に手ほどきを受けたんですが、なかなか言うことを聞かなくて」
 五嶋「僕は一回、ご主人と回ったことがあるんですが…。ところで、ゴルフを始める前は何かスポーツをやってらしたんですか」
 長田「私は器械体操でした。だからゴルフを始めたときに主人にこんにやくて言われて『こんにやくにするな。足を踏ん張れ』って言われました」
 五嶋「私の家内も高校時代、体操をやってまして、いま同じです。体、ものすごい柔らかいです」
 長田「手首を固定しなければいけないのに、手首くんにやくにゃ、すべてがくんにやくにゃ（笑

い）」
 小濱「私はボールを打つことにはそのまま入って行けました。ソフトボールやってみましたから」
 長田「それは強いわ」
 小濱「高校時代に鐘紡からスカウトに呼びに来られたこともありまして。まあ暴れん坊でしたね（笑い）」
 一同「エーッ、すごいな」
 長田「それで分かりました。彼女のね、足腰の強さ。一緒にラウンドしますとね、下半身が本当に強いんです。ボールよく飛びますし」
 五嶋「ホーッ。ソフトなら岡本綾子と一緒にですね」
 小濱「やってたことはね」
 長田「初めて今、お伺いしました」
 小濱「私もね、毎日、夕食の前に打ちっ放しに行きました。雨が降っても行きました。行かないとね、食事に入れないんです」
 五嶋「ハハハハ」
 小濱「私も仕事手伝ってましたから、仕事が5時に終わったら6時まで神戸ガーデンっていうところへ毎日行きました。だからコースへはすっと入っていけました」
 五嶋「ソフトボールしてると最初はスライスしませんか」
 小濱「ピッチャーもしてましたから、どちらかというとバッティングよりもアンダースローの感じを生かせたと思うんです。だからスライスの苦労はあんまりないんです。」
 大川「ソフトボールはアンダースローですから向いているんじゃないですか」
 五嶋「僕は野球やってたんですが、ソフトボールとは違うんですね」

女性に教えるのは忍耐

五嶋「ゴルフを続けられている動機は何ですか？」
 長田「同じ趣味を持つとね、夫婦円満どこでも一緒に行動できると言うこと」
 大川「その通りや（拍手）」
 長田「ハハハ」
 五嶋「前に、この対談で伊藤さんに…」
 長田「はい、ライカさんの」
 五嶋「アメリカで夫婦で10日間連続、ゴルフをされたとか。夫婦でよくやれますなど、僕はよけいなことをいいました。僕も家内とたまに行くんですが、だんだん腹が立ってきてね」
 大川「フフフ」
 五嶋「ま、こうせえ、ああせえ、と言っても言う通りにやらないんですね。そうすると家内





の方も“あなたに教えてもらわんでもいい、私にはプロがついている”、と生意気なことを言うんです。ハハハ、楽しいはずのゴルフがけんかになる。何か、楽しく回れるコツがありますか」

大川「女性の場合、教えようとすればコツがいるんです。あまり沢山言うてはいけない。一番悪い点を見つけ、こうするんですよと教える。いいボールが出るまでじっと待つんです」

小濱「忍耐ですか(笑い)」

大川「思ったボールが飛んだら、それをしっかりほめる。とたんによくなる。ミスをしたとき徹底的に言うてしまえば立ち直れなくなる」

小濱「奥さんじゃない女の方に教えるときにはそんなにひどくは言いませんものね」

大川「夫婦だからです」

小濱「同じような教え方をなさったらうまく行くんじゃないかと思うんです」

大川「奥さんとか、男とかも関係なく、コーチする場合はそういう心がけが必要です」

長田「あんまり、言わないでほしい。夫婦で回っているときは、ナイス、よく入った、うまい、うまいというくらいでね。いいことだけ言って右向いてほうが左向いてほうが、ほっといてほしいんです」

五嶋「長田さんのご主人はどうでしたか？」

長田「長所は言っていました、私の性格を見抜いていたのか、言わなくなりました」

五嶋「ご主人は穏やかな方じゃないですか」

長田「ハハハ、そうですね。会長？主人、穏やかですか。私の方がきついか(笑い)。体力には個人差がありますでしょ。握力も違うんだからその人のスイングがあると思うんです。変なスイングなさっている人でも球をとらえる瞬間に素晴らしいものがありますよ。ね、会長？私もたこ踊りはしてますけど、それなりに球をうまくとらえています」

小濱「彼女、こうやってさらっと言ってますけど、本当にうまくなる人は教えてもらった後、自分で一生懸命練習されますよね」

大川「練習ですね」

小濱「黙々とやっています」

大川「上手な人は必ず何かやっています」

五嶋「小濱さんのご主人はいかがですか？」

小濱「私、あまり主人に教えてもらってないんです。とにかく私、自分で考えていろいろと打つのが好きで、お昼休みでも庭に出て振ったり。結果出るまでする方で、たまに迷ったときにこっちから聞いたら、教えてく

れるんです」

大川「こちらのご主人も穏やかな方で…。ハハハ」
小濱「なら、私がきついみたいじゃないですか(笑い)」

大川「だから、ご主人、も、と言うんです。ご主人も奥さんと同じく穏やかで仲むつまじく。ご両家ともうらやましい限りです。ハハハ」

小濱「でも、本当。同じ話題があって。テレビ観ても同じゴルフ番組を観てるのはなごやかでいいと思うんです」

長田「私たちもね、よかったです」

小濱「主人にね、それは感謝しています。ゴルフ勧めてくれて。私、子供が3人、男の子ばかり4年ごとに生まれて。でも好きで行きたかったから行きました。ゴルフすんだらお風呂も入らずさっと帰る。阪急沿線の花屋敷まで家からキャディーバッグとポストンバッグ持って三宮まで10分歩いて、西宮で乗り換えて宝塚で乗り換えて、花屋敷でクラブバス待って。そんなことしても月に2回のレディースのコンペに行くのが楽しみです」

五嶋「はあーっ。いや、今日は勉強になります(笑い)」

一同「ワハハハ」

長田「やはり夫婦で同じ趣味を持って同じ所へ出ていくというのは絶対にいいことですね」

大川「そう思いますね」

小濱「オリンピックは夫婦でなごやかな方が多いですね」

長田「これは会長の目指しておられたものですね」

五嶋「ああ、そうですね」

大川「うちはお風呂も大きいしロッカーもたくさんある。なぜか？これからはレディースキングの時代になるから(笑い)と…」

小濱「現実にそうになりました」

大川「女性を大事にせないかんということで作ったんです」

思い出のゴルフ

五嶋「25歳からの思い出かエピソードは？」

長田「結婚して3年目か4年目にヨーロッパに行く機会ができて、セントアンドリュースのオールドコースを回ったんです。ゴルフ場というのはきれいなところという頭があったんですが、びっくりしましたね」

大川「アハハハ」

長田「たまたまハンデ1のキャディーさんだったんですが、主人に向かってとんでもない方向へ打てというんです」

五嶋「はあ？」





ード通りの36を出したとき、自分もやろうと思えばやれるんだ、というのが分かってから強気のゴルフに変わりました」

9月の報知クラブ対抗に応援を

長 田 「主人はフェアウェイの方へ打とうとするんですが、NO、NO、言って。ぶつぶつ言いながら打ちましたら行ってみてびっくり、フェアウェイに止まって、たこつぽバンカーも見えないんです。業界の人が60人ほど集まったコンペで3位になって。あれはいい思い出ですね」

五 嶋 「奥さんのスコアは？」

長 田 「私はスコアなんて覚えてません」

五 嶋 「会長はオールドコースを初めて回ってパープレーだったんです」

長 田 「そうらしいですね。すごいですね」

大 川 「ゴールドキャディーがついてキャディーの言うとおりに打ったらみな乗っていった」

長 田 「今、テレビ観ても、ああ、このバンカーであなた2回たたいたねとか、話が出るんですよ」

五 嶋 「競技の思い出はありますか？」

長 田 「全日本に一度出させていただいて、49か50の時でした。関西の予選はたまたまラッキーで2日間いいスコアで上がってきまして愛知の南山というコースであった決勝に出ることになったんです」

五 嶋 「ほう」

長 田 「行ったら私が一番年長。で、ハーフ上がったら38だったんです。4つのショートで3つパーディーを取ったんです」

大 川 「おお、すごい。あのコースは結構難しいですよ」

長 田 「周りから年の割にすごいと言われて。ターンして42で、トータル80ですからうれしかったですね」

五 嶋 「小濱さんは？」

小 濱 「私は子供もいましたし、遠いところの試合は遠慮して。だいたい、マイナス志向というか、きっとだめだ、外すという気持ちだったんです」

大 川 「ハハハ」

小 濱 「ある試合でね、1番パー5でパーディーを取ったんです。ところが2番のショートホールで3回池に入れまして8だったんです。これで、今日は終わった、と思っていたら一緒に回っていた人があと全部パーでいったら4オーバーで40でしょ、と言って頂いたんですね。そうしたら7番ホールで1ヤードのパーパットを外しただけですべてパーを取って41だったんです」

五 嶋 「へーっ」

大 川 「オオーっ」

小 濱 「2か月ほどしてから月例で、17番の10ヤードぐらいのパットをねじ込んで初めてハーフではありましたが全てパーでスコアカ

五 嶋 「ハンデ8とか10というのは男で言えば1か2ぐらいでしょう」

大 川 「男性で言ったら5以下ですね」

小 濱 「クラブでは皆さんおだてて下さいますけど、本当にうまい人を私たちは見えますから皆さんもどんだん外の試合に出て素晴らしいプレーヤーと一緒にラウンドする機会をもってほしいんです」

五 嶋 「最近ちょっと思ったんですが、女性のゴルファーの方は80、90歳までやる方はない？」

小 濱 「関西レディスゴルフクラブの会長は82歳です」

五 嶋 「いやね、骨粗鬆症の女性がゴルフやってると80歳でも丈夫でできると、そういうことを啓蒙していかなきゃ」

小 濱 「私もね、身体に気をつけてオリンピックの女性ゴルファーの良い見本になりたいと思ってます」

大 川 「ゴルフする人は陽に当たるから骨粗鬆症はあまりないですよ」

五 嶋 「女性の方がいま長生きですし、我々同級生ですから…」

小 濱 「一度ご一緒させてもらって…」

五 嶋 「飛距離で負けるかも」

大 川 「お強いですよ」

小 濱 「今年は報知新聞の女子クラブ対抗がオリンピックG.Cであるんです」

五 嶋 「いつですか？」

小 濱 「9月22日です。当倶楽部は、開催コースなのでシードされました。皆さんの応援が何よりの励みです。若い方が腕を上げてらっしゃるのもたのしみです。長田団長たのみますヨ」

長 田 「お尻たたかれています」

大 川 「がんばってほしいですね」

小 濱 「オリンピックの代表ということに誇りを持ってます」

長 田 「チームによっては応援がないところもありますが、うちは皆どっと、すごいですよ」

楽しんで帰れるゴルフ場に

五 嶋 「いや、楽しい話ありがとうございました」

小 濱 「勝手なことばかり言ってすみません」

大 川 「本当に皆さんにご協力いただいて、そのおかげで私も頑張ろうという気になります。私からゴルフを取ったら何も残らない。自分が生まれてきて人様のためになるようなことをしたい。貴重な時間を割いてコースに出てもらうんだから、エンジョイして帰れるようにして上げる以外に皆さんに貢献できることはないんです」

(あとがき)

男優先のゴルフ界で、女性なりのご苦労もあったかと思うが、お二人の明るさとたくましさはそんなものはね飛ばしてこられたようだ。ゴルフが大好きで練習が大好きで、お二人ともご夫婦円満で、ゴルファーとしてだけでなく、その人生にも学ぶところが多かった。(五嶋)